

「亀山社中」は
日本最初の貿易商社

慶応元年（一八六五年）

土佐の浪士・坂本龍馬が

長崎の伊良林に

同志たちと結成しました



亀山社中

土佐藩に生まれた龍馬は
文久2年（一八六二年）に脱藩

勝海舟と出会い

神戸の海軍操練所などで

国際的感覚を身につけました

勝先生

あしを

弟子に

しとうせ



「亀山社中」の設立には

薩摩藩や

長崎の豪商・小曾根氏らの

バックアップがありました

小曾根 乾堂や

その息子・英四郎は

協力を惜しまなかったと

います



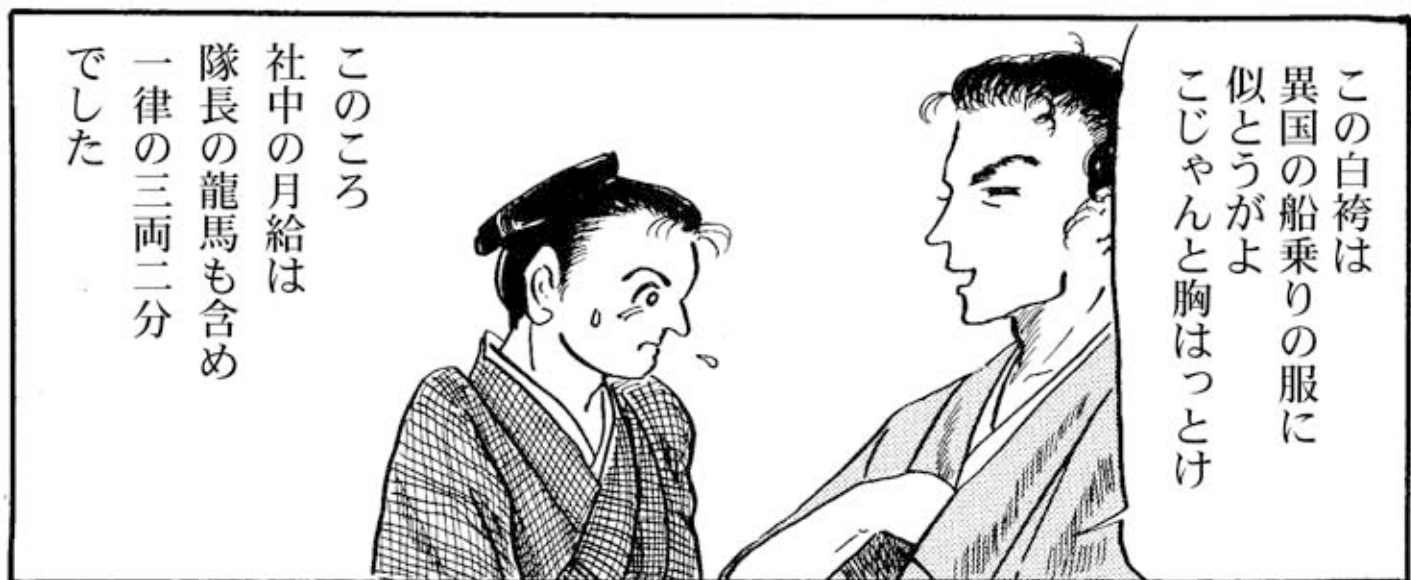
龍馬の妻・おりようも

一時期

小曾根家へ滞在し

※月琴を習っています

※月琴＝当時流行した中国楽器



隊士の中には

国際法や商法に明るく

後に外務大臣になった

紀州出身の

陸奥陽之助

(陸奥宗光)



陸奥 宗光



近藤 長次郎

龍馬の幼なじみで

商才と交渉にたけた

「まんじゅう屋」こと

近藤長次郎

(上杉宋次郎)などが

いました

龜山社中の功績のひとつに

外国製の武器や船舶の販売を通して

犬猿の仲であった

薩摩藩と長州藩の

橋渡しをしたことが

あげられます

近藤長次郎も

貿易商トーマス・グラバーとの

交渉などに奔走しました



トーマス・グラバー

しかし独断で

イギリス渡航を企てるなど

社中の規約に反した罪により

小曾根別邸で自刃^{じじん}

龍馬が長崎不在中の

慶応2年（一八六六年）



薩長同盟が結ばれる
8日前のことでした

悲運は続き

グラバーから購入した

帆船ワイルウエフ号が

同年

上五島の潮合崎沖で

嵐に遭って沈没

池内蔵太ら社中の12人が

亡くなりました

その地を臨む

「龍馬ゆかりの広場」が

新上五島町有川に

あります



激動の

慶応3年（一八六七年）

龍馬は

土佐藩政家老格の

後藤象二郎と

長崎の清風亭にて

会見

二人はすぐに

意気投合したと

いわれています

亀山社中は

土佐「海援隊」と改められ

龍馬は

その隊長に任命されます



後藤 象二郎

長崎から京都へ
向かう船の中で
近代国家のあり方について
龍馬が示した「船中八策」は
後藤象二郎によって
土佐藩主・山内容堂に
伝えられました



みかど
帝に
政権を・・・
しかし上様が
承知なさるか



してもらわにや
この国は戦になり
多くの犠牲者がでる
そうなること
外国の思うツボじゃ



おんし
らしいのう

よし
殿に
進言してみよう



こうして
土佐藩が
15代将軍・徳川慶喜に
大政奉還の建白案を提出し
実現したのです



それから

わずか一ヶ月後

海援隊の京都の拠点・近江屋

龍馬は

盟友中岡慎太郎と一緒にのところを

刺客に襲われ亡くなりました

享年 33 歳

奇しくも彼の誕生日でした



龍馬という
大きな舵^{かじ}を失った
海援隊は
求心力をなくし
翌年の明治元年
(一八六八年)に
解散

生前龍馬は
新政府案参議中に
西郷隆盛から
龍馬自身の名がないことを
尋ねられ

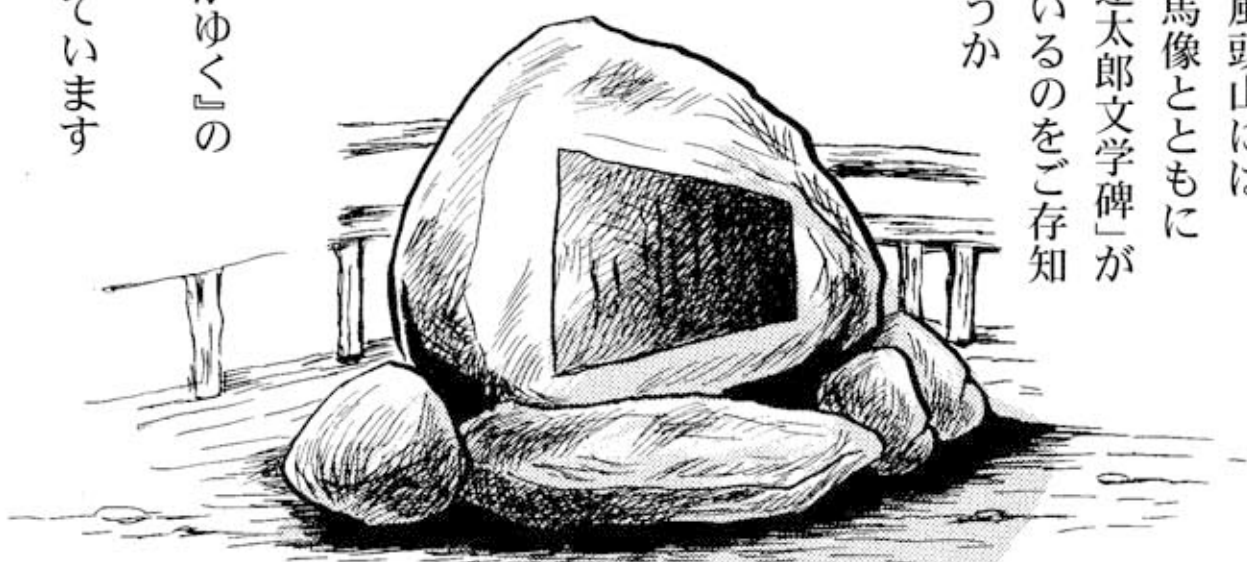
世界の
海援隊でも
やるさ

と
答えたと
います



現在
長崎の風頭山には
坂本龍馬像とともに
「司馬遼太郎文学碑」が
建っているのをご存知
でしょうか

『竜馬がゆく』の
一節が
刻まれています



『船が長崎の港内に入ったとき
 竜馬は胸のおどるような思いをおさえかね
 「長崎はわしの希望じゃ」
 と、陸奥陽之助にいった。
 「やがては日本回天の足場になる」
 ともいった』

当時のたぎるような
 龍馬の思いが
 伝わってくるようです

龍馬をはじめ
 亀山社中の隊士たちは
 長崎の海を眺めながら
 遠い外国への憧れ
 日本の未来への希望

そして
 それぞれの夢に向かって
 あふれる思いを
 抱いたのではないだろうか

